

| | | | | | | | |
|------|-----------------------------|--|--|--|--|--|----|
| テーマ | 棚卸資産と売上原価（Ⅱ）、有形固定資産と減価償却（Ⅰ） | | | | | | |
| 学籍番号 | | | | | | | 氏名 |

1. 棚卸減耗には原価性があるものとないものがありますが、それぞれ損益計算書のどの区分に記載されることになるか、その理由も含めて述べなさい。

原価性のある棚卸減耗は、毎期反復的に正常数量で発生するものであり、事業活動に不可避なものとして売上収益と対応付ける。原材料に関するものは、製造原価に算入し、商品・製品に関するものは売上原価または販売費に含める。原価性のない棚卸減耗は、臨時的または異常な原因で大量に発生したものであり、売上収益との対応関係は認められないため、特別損失の区分に計上する。

2. 棚卸評価損による時価評価後の会計処理方法に洗い替え方式と切放し方式がありますが、この 2 つの方法はどのように適用するのか述べなさい。

洗い替え方式と切放し方式は、継続適用を原則として、棚卸資産の種類ごと、および簿価切下の要因ごとに選択適用する。ただし、特別損失に計上した棚卸評価損については洗い替え方式は適用できない。

3. 有形固定資産には償却資産、減耗性資産、非償却資産、建設仮勘定がありますが、建設仮勘定以外の 3 つの資産について説明してください。

償却性資産とは、使用しても数量的には減少しないが、その価値や使用や時の経過によって確実に低下する資産であり、減価償却の対象となる資産をいう。減耗性資産とは、採取によって数量的に減少し、最後には枯渇してしまう天然資源をいう。非償却資産とは、使用や時の経過によっても価値の低下が生じないため、減価償却を行う必要がない有形固定資産をいう。

4. 無形固定資産の例を 3 つ挙げてください。

| | | |
|-----|-----------|-----|
| 特許権 | ソフトウェア制作費 | のれん |
|-----|-----------|-----|